

令和5年度東部地区地域学校協働活動実践発表会について(報告)

【概要】

1 開催日 令和5年11月28日(火)14時～16時15分

2 会場 蓮田市総合文化会館(ハストピア) ときどきホール

3 内容

(1) 実践発表

発表団体	テーマ
羽生市教育委員会	学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の推進 ～幅広い層の地域住民等が参画した「緩やかなネットワーク」形成を目指して

※令和4・5年度地域学校協働活動に関する研究委嘱

(2) 協議及び意見交換

- ・小グループに分かれて「地域学校協働活動」に関する協議及び意見交換
- ・協議テーマ「学校運営協議会及び地域学校協働活動に関する取組の実態と課題について」

(3) 指導講評

- ・埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課地域連携担当

4 参加対象者

参加対象者	参加人数	合計
「東部教育事務所管内学校番号表」における学校番号が奇数校、及び義務教育学校(前期課程)の教職員	各1名	324名
「東部教育事務所管内学校番号表」における学校番号が奇数校、及び義務教育学校(前期課程)の地域学校協働活動に携わる保護者・コーディネーター等	各1名	
東部地区地域学校協働活動担当者会議委員(市町教育委員会担当指導主事を含む)	38名	

※次回(令和7年度)の参加対象者については、学校番号偶数校及び義務教育学校(後期課程)を原則とするが、統廃合等があった市町については、その限りではない。

5 参加者

全出席者数 290名(うち担当者会議委員28名)

学校関係者:210名/262名(事前報告) 80.2%

(内訳)教職員:129名/140名 92.1%

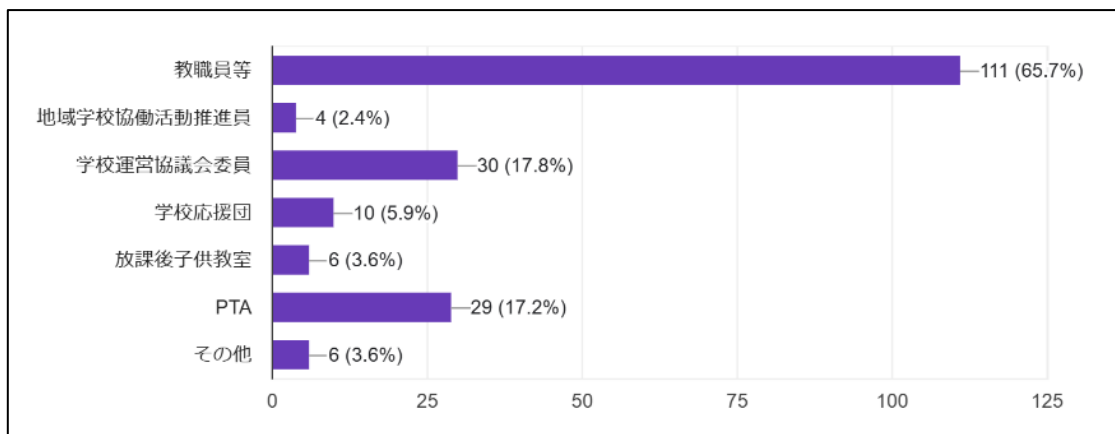
保護者等:81名/122名 66.4%

※欠席者については、事前に連絡してもらうよう通知文に記載したが、保護者等の当日欠席が多く、市町教育委員会の担当者に協力いただき、欠席連絡をお願いした。

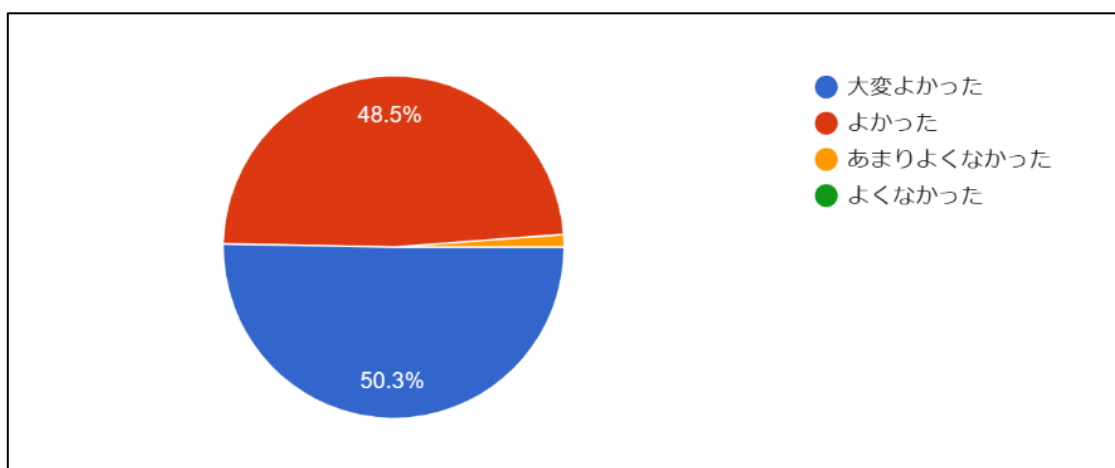
【報告】

1 参加者アンケートから(290名の参加者のうち、169名から回答)回収率:58.3%

(1)所属等(169件の回答)



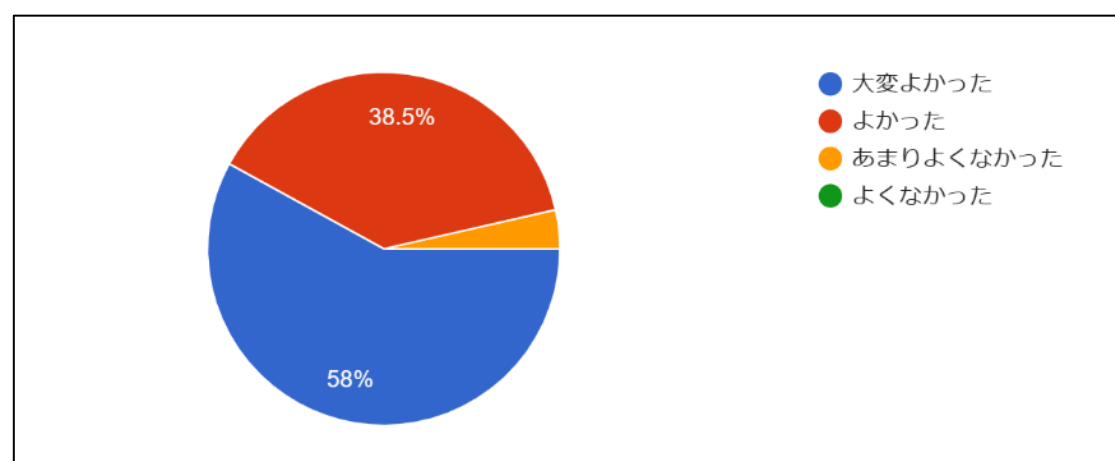
(2)実践発表について



<あまりよくなかった、よくなかったと回答した理由>

- 学校運営協議会とコミュニティ・スクールとの関連が、おそらく保護者や地域の方からは分かりにくいのでは、と感じた。
- 予備知識が無いと理解が難しい内容があった。埼玉県教育局の話の先に聞いた方が理解しやすかったかもしれない。

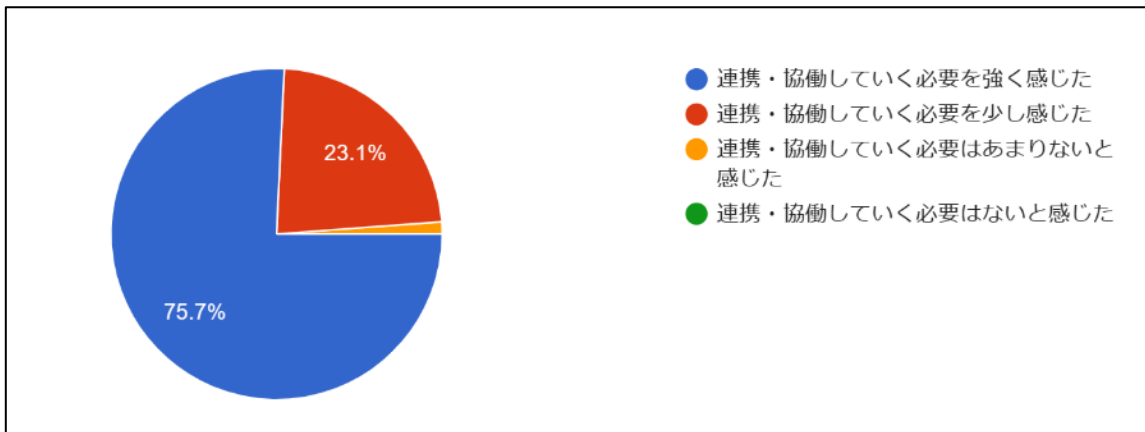
(3)協議について



<あまりよくなかった、よくなかったと回答した理由>

- 協議時間が長い。グループ協議しにくい会場である。
- 議題テーマの内容が大まかであったのに時間が長かったため。
- いい話ばかりで、マイナス面の話がなかった。管理職、特に教頭の負担が減ってこそ働き方改革だと思う。
- PTA関係者ばかりのグループになってしまったため、学校職員側の意見を聞くことができなかった。
- 自分が分かる内容ではなかったなので、聞くだけになってしまった(聞くだけでも他市のことが分かってよかった)。

(4)学校と地域の連携・協働について



(5)自由記述欄(98件のうち15件を抜粋)

- 小グループでの協議は、とてもよい場となった。今後も継続していただきたい。また、できればグループの中に教員以外の方がいると、さらによいと感じた。
- 他市の教頭先生と協議することで、かなり地域ごとに違いがあり、参考になることが多々ありました。改善に繋がれるように、自校の学校運営協議会で取り上げていきたいと思った。
- 他の地区でどのように地域との連携がされているか、また、課題が何か、ということについて共有することができた。また、地域の代表がどのようなことを把握しているかや、課題がどんなことを学校も把握することが大切だと感じた。人材確保の方法や、学校応援団の組織の仕方も地域でそれぞれ特色があり、参考になった。
- 羽生市の素晴らしい発表は、とても参考になった。また、他市町の先生方との情報交換、課題の共有、解決策の協議ができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。
- 羽生市の素晴らしい実践を知ることができ、有益な時間となった。「地域のこどもは、地域で育てる」という目的が地域に浸透しているのだろうと感じた。新型コロナウイルス感染症も減少傾向となり、様々な活動が再開されてきているので、CSと地域学校協働活動を両輪として、本校もこれまでの取組を見直すとともに新たな取組を模索していきたいと思う。
- 協議をしたメンバーが、ごく近隣の市町の委員さん方だったので、親しく感じられ様々な活動や、課題など伺えてよかった。自分の立ち位置で、できる事や役割に悩むことがあり参加したが、ヒントを頂くことができた。今後の活動に活かしていきたいと思う。
- 今回の実践発表などは大変勉強になった。私の学校は運営協議会かできて2年目で、どのような活動をしていくかは手探りな状態。報告などにもあった、課題の一つ、運営協議会か報告などで終わってしまっている、まさしくそのような会議になっている。これから地域を含めて学校運営に携

わるには様々な課題をクリアして、より良い学校運営が行えるようにしていくことが大切だと改めて感じた。またグループ協議があったのも良かった。他市がどのような活動をしているのか、実際に話を聞く機会はあまりなかったので、直接話をする事でより深く色々なお話を交わすことができた。ただ、私のグループは皆さんPTA関係の方だったので、せっかく先生方も参加していた会議なので、学校側の意見として先生のお話も聞いてみたかった。

○羽生市では、羽生市独自の様々な活動を通して素晴らしい実践を行っていることがよくわかった。大変参考になった。「緩やかな」という言葉から、無理のない連携が進められていることがよくわかった。地域には、それぞれの特色がある。私どもも私どもの地域の特色を生かした「緩やかな」実践を目指したいと思う。

○大変勉強になった。今後の日本社会において、必要な取組であると感じている。CSの充実が、子どもの成長に寄与することを最優先に考え進むことを期待している。協力者に対する時間的、金銭的なケアは接続に大切だと思った。

●学校運営協議会について期待を寄せているところではあるが、委員の高齢化や温度差など、課題は多い。教育委員会が主導する形で研修会を行うなどお願いしたい。

●協議グループの組み方に工夫がほしい。前列の2人の体勢が非常にきつかった。

●オンラインとのハイブリッド型にしてもらえると、参加しやすい。

●持続可能で、より効果的な会とするため、「オンライン・オンデマンドを活用した開催」にできないものか。会の中でも、学校も地域も、持続可能であることと人材の確保に課題をもっている。本校を例に言えば、今日は出張者が多く、私が本会に出張している間、一人の教員が複数の学級の自習を監督している。本校のPTA会長は、お子さんのクラスが学級閉鎖で、本会への出席が叶わなかった。今回のように一同に介して、顔をつきあわせて話をすることの意義も十分、承知しているつもりではあるが、学校関係者もPTA役員も地域住民も、だれもが参加しやすく、本会の目的がより効果的に発揮される開催方法を再度、ご検討いただきたい。

●声が通りにくくて、協議の声が全体的に大きくなり、それにより声が通りにくいという悪循環だった。他の部屋を貸してもらえたらよかったと思った。また、人材不足はどこにでもある。ボランティアでやってもらうためには、高齢者が裕福なミドルしかない。または、ボランティアの教員。行政には、そのあたりに、たくさんお金を出してもらいたいと思う。

●近隣の事例が聞けて良かった。教育委員会の立場からだけでなく地域のCSの方からの話も聞けると良かった。